

2020 年度 惑星学実験実習の基礎 II 遠隔実習のための準備

1. 概要

はじめに

- COVID-19 拡大への対応として, 各種遠隔講義が実施されている.
- 惑星学実験実習の基礎 II では計算機を使った実習を行うため, 例年は情報基盤センター分館の演習室を使用している. 2020 年度も基本的には同じ方法で実習を行う予定であるが, 可能な範囲で, 実習中の密接状態を緩和するため, 遠隔実習の方法も用意することにした.
- ここに紹介する環境, あるいは各自で準備できる同等の環境において実習の内容を実施できる者は遠隔で受講しても構わない.
 - なお, 各自の実習環境の準備の際に起こるトラブルには自力で対処すること.
 - 密接状態を回避するため, 情報基盤センター以外の学内の講義室から遠隔で受講しても良い.

実習に必要な環境

- 惑星学実験実習の基礎 II では, Unix/Linux 環境での実習を行う.
 - Unix/Linux は OS (Operating System) の一種. 実習で紹介する予定.
- そのために下の要件を満たす環境を用意する必要がある.
 - Unix/Linux コマンドを実行できること
 - emacs が動作すること
 - gnuplot が動作すること
 - Fortran コンパイラ (例えば gfortran) が動作すること

環境準備の二つの方法

- ここでは, 先に挙げた要件を満たす Unix/Linux 環境を準備するための二つの方法を紹介する. 下の二つの方法のいずれかで準備できれば良い.
 - VirtualBox を用いた仮想環境
 - Windows PC での利用を想定.
 - macOS でも利用可能だが, 下の方法を用いる方が素直だろう.
 - macOS 環境

環境準備の補足

- 先に挙げた二つの方法で、学生が所持するすべての PC に対応できる保証はない。
- 特に一つ目の方法では、利用する PC にそれなりの性能が要求されるかもしれない。
 - 少なくとも、仮想環境のために 1 GB 程度のメモリと 10 GB 程度の HDD/SSD 容量が必要と思われる。(PC の全容量ではなく、仮想環境が使用する容量。ただし、使用状況に依存すると思われる。)
- 上の方法以外にも実習を実施できる環境を準備することはできる。準備できるならばそれら異なる環境を使用しても構わない。

準備方法

- 具体的な準備方法については, 別の説明のファイルを参照すること.